明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可 (日刊) 月曜及祭日の翌日休刊 明治四十四年二月十五日 (水曜日) 第六百廿六號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢 ▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

雜報

森安博士の講演(五)
▲ペスト豫防心得▼

肺ペストは最も危險なものであれば其時には直に醫者に掛つて相當の處置をします夫故に危險の場合に比較的少くないが現に角目に見へない傷が恐しいのであります チョット掻いて上皮が剝離したとか爪の間にさゝくれが出來たとか或は汚物か着物のすそに附て之があるく度に皮膚をこするとかすれば其處の皮がむけてをれば夫は傷であります、そふ云ふ處をペスト先生は目掛けて侵入するのであります故に夫から往々起るのが多いのであります 無論毒が這入れば第一に腺が腫れるけれども其腫れた上の皮膚か如何であるかと云ふに始めの内はチョットも變りはありませぬ腫れた腺が篩つて見ますると皮膚を圓くてねた樣な風の硬さであります夫から段々進むと腫れた腺が益々大きくなる即ち此の處に掲げてある圖は腺ペストでありまして左の鼠蹊腺が腫れて來たのであります其處が段々赤くなつて來てそれからして腺は段々化膿し化膿すると同時に皮膚が壞死して破れて來て潰瘍になるのであります腺の内で何の腺か一番侵されるかと申しますと矢張第一に鼠蹊腺であります次には腋窩腺即ち腋の下にある腺でありますそれから頸腺即ち頸部の腺が侵されるのであります次は皮膚ペストが來るのが多いのであります若し純粹の皮膚ペストに罹たとすれば其時には其局處がポーッと赤くなる斯云ふ風でありますそうして其赤い處へ水泡が出來るそれから其水泡の内容が混濁して膿に變じそうして其周圍が異赤になつて來る即ち膿胞となつて現はれる或は御承知の通り癰となつて現はれてそれから皮膚が壞死して其處が壞れて潰瘍となつて非常に出血仕易いものになります即ち皮膚ペストの時分であります、主に膿泡又は癰となつて來ます夫れから第三に申上げるものは肺ペストで御座います此病氣は三種の内最も恐るべきものであります此肺ペストと云ふのはペスト菌を呼吸器から吸入しなければ起らぬものである即ちペスト患者の側に行つて其汚物が一寸手に附ても知らず〳〵の間に其手を口に持つて行くさうすれば口から呼吸器の方に這入りて起るのであります殊に肺ペストの患者は肺炎と同じでありますから咳が出る其咳から小さな球が飛んで出る其球が小さな目に見へない樣な粒で此内にペスト黴菌が何萬と含まれて居る之は輕いから空氣中にフワ〳〵して浮いて居ります故に患者の傍に居れば知らず〳〵の間に吸ふてそうして罹るのです夫に罹れば丁度肺炎と同じ事で惡寒戰慄を催しますそうして四十度乃至四十度以上の熱が出ますそうして咳嗽が出るし咯痰が出る此痰は如何云ふ樣なものであるかと申しますと淡いので其中に血液が混じて居ります夫れから間もなく敗血症となります之れに罹ると二日間か三日間で斃れるので御座升

新小說豫告

愛讀者諸君大喝采の裡に連載せし山中鹿之助も今八十回にて名殘り惜しくも一先づ讀切りとなりたれば次號よりは名染みの碧瑠璃園の作

鏡山おはつの一代記

を掲載し以て讀者諸子の眷顧に報ゆ可くおはつが女傑として否女主の爲め女ながらも身命を忘れてのけなげな働き振り蓋し小說中の花とも謂つべし

●尙齒金と耆老者

過般京畿道警務部にては第二回の調査に係る兩班儒生の耆老者二百八十名に對し尙齒金辭令を發し夫れ〳〵道内各警察署及び憲兵分隊等へ廻送したること既報の如くなるが目下各分隊警察署にては其辭令及び尙齒金の下附準備中にして又下賜を了したる部分もある由なるが各耆老者は一般に聖德の敦きに感泣し居たるも今回は始めより尙齒金の下賜を當て込みたるより第一回當時の如き事少なきが如しと

●移住漁村激增

例年十二月より翌年一二月頃に掛けては内地よりの出漁船著るしく減少を見るの常なるが是れ漸次寒氣に向ひ漁業最も困難なると一は越年の爲め歸國休養するもの多きが故なりしも朝鮮併合後は者各縣出漁團及び各縣漁業根據地を有する者の增加したるに因り出漁者は此の嚴寒中といへども歸國を敢てせず引續き漁業に從事するもの多きを加へたるを以て本年の如きは例年に比して此の嚴寒中の漁業者は殆んど五倍するの狀態にあり通常の漁期に比しても左したる減少を示さゞるに至り從つて各地の移住漁村も昨今非常の激增を見つゝありと之れを要するに朝鮮海の漁業は既に通漁の時代を經過して今や移住漁業の時代に入りしは大に喜ぶべき現象なりといふ

山中鹿之助
七十八回 西尾麟慶演

茲に信州姥捨山の麓に庵を結び花鳥風月を友と爲し、安らかく世を送り居りますは相木森之助並に妻更科、時しも四月上旬寒國の慣ひとて、櫻も花を開き山吹も共に色を添ゐると云ふ、實に一年中の好陽氣、然も日の暮合でパラ〳〵と山颪にさそはれて、柴の戸叩く櫻の花辨、何れの寺で打出すかボンと響く入合の鐘、支那の呑斎な人間も春宵一刻値千金と申しました、春の日は暮るのが惜しい位ゐ 森「更科、今日は誠に朗かな日和である 更「左樣で御座ひます、結構な日和で御座ひます 森「コレ〳〵誰か參つた樣 更「ハイ、と答へて立上る折しも ○「お頼申す、手前は中國から參りましたもの、相木森御在宅におはするか、之を聞て森之助 森「ウーン、世を捨て廿有餘年、交はるものは農夫にあらざれば樵夫杣、武士らしき言葉を聞て何んとなく昔時が思ひ出される、拙者は相木森之助だ、何誰であるか、是へ入りなさい。○「御免、と云ひつゝ入り來る武士を見てあれば、紺純子深編取つた野袴に、切緒の草鞋黒紬五ツ紋の袷衣、柄袋かゝりし大小、左りの手に水口の羽反笠を提げ、立派な武家であります 森「其許は中國と云はれるが、何れの御家來 武「お父上暫くお目通りをいたしません、手前は尼子義久の臣、山中鹿之助に御座ひます、云はれて森之助並に更科は 森「偖は鹿之助であつたか、先年大谷古猪之助なる者罷越し、其方が尼子に仕へ重く用られ居る由承はつたが、能ふ尋ねて參つた、親は無くとも子は育つとやら、思ひ出せば三十年の昔語り、其方が未だ幼年の節諸國修行に出せしが、能く無事で立歸つた、更科、鹿之助が參つたゾ、男勝りの更科も流石に我子を見ると、先立つものは涙のみ、此時、相木森之助 森「鹿之助、功成、名遂げて身退く、亢龍悔ありとは聖人の誡め、其方が尼子の家に於て重く用ひられたは何よりも喜はしいが、永く義久は主人といたすべき人物でない、只今の内に是へ隱遁いたしたが宜しからふ、定めし其方が是へ參つたのも主家の安危に關しての事ならん、何うぢや」、星をさゝれて、鹿之助が嘆ひた、俺の親父だけれども、中々相木も云ふ方は、物だ、能く知つて居る 鹿「お父上のお言葉拙者の胸中を見拔き恐れ入りました、然し臣として君の危さを見て身退くは不忠に存じます、依つて拙者は飽迄も主家の爲に盡す心底、就ては毛利元就に備へるは如何いたして宜らふか、夫を承はりたく罷り越しました 森「コレは又思ひもよらぬ其の質問、此の森之助は世を捨たものであるから、其の事に就ては一言も申す事はならぬ、然し折角遠路參つたもの此の儀輻すも不本意、依つた書面を添ゑる故、之を持て越前一條ケ谷圓耶寺に罷在る美濃の土岐の一家、明智十兵衞方へ參つて萬事相談をいたして見ヨ、と父が添書をくれました、ソコデ兩三日是へ滯留いたした後、越前一條ケ谷朝倉の菩提寺圓耶寺へ參つて、明智光秀に始めて面會いたしました、此の明智は美濃國稻葉山高藤義龍の旗下で岡國明智の城を預つて居た明智光安と云ふ人の甥で御座ひます、義龍を龍興か殺して明智の城へ兵を向けた時に光安は討死をいたし、十兵衞は搦手から落て諸國を廻り、本來土岐を名乘るべきであるが伯父の姓を襲て明智を名乘り、ましても中々苦勞をした人で、此の時は越前に居りましたが、其處へ山中鹿之助が參つたので御座ひます、肝膽相照し兩豪傑が茲に出會た、いろ〳〵話の末、山中は中國へ歸つて主人義久に明智を推擧したが用ひない、其内に毛利は和睦を破つて兵を向けました、然州富田は落城して、今は播州上月の城ばかりになつた、山中鹿之助が茲に六年籠城した、其内に明智は信長に仕へて立身する、夫を聞て山中が援兵を乞ひました、信長に内密で五百の兵を送つて參りました、然し天の尼子を滅す

時間表 大門間

セイケイガン カタル、ラツプ 木下大盛堂

京城居留民團告示第十六號
當民團區域内ニ居住スル者ニシテ明治三十七年四月ヨリ明治三十八年四月一日ニ至ル間ニ出生シタル兒童ハ來ル四月一日就學ノ始期ニ達スヘキニ付該兒童ノ保護者ハ來ル三月二十日迄ニ入學願ニ戸籍謄本ヲ添ヘ當民團役所ニ提出スヘシ
明治四十四年二月七日
京城居留民團民長 古城菅堂

●水道用 ゴムホース 布ホース
●消防用 附屬金物一式
電氣機械 呼ベル其他電氣に關する器具取付及修繕一式
京城明治町九十八番戸 竹下商店 電話取次 廣松組 一七一番

最上醬油 登録商標 山十印
釀造元 千葉縣銚子町 岩崎重次郎
發賣元 京城本町壹丁目 三巳商會 電話七五三番

◉貸金 旭町二ノ一五別府高橋 組車帳場筋向小路 有給者には極秘密に低利融通可申候

りん病 永年の●りん病せうかち●を全治保證の新藥あり郵劵二錢送れば無料詳報す ●東京四谷永住町二一 飯田

内科小兒科 診察時間 自午前九時至午後二時 京城明治町三丁目 醫學士 村上龍藏 電話六一三番

調劑及定價 京城本町九丁目 木下大盛堂

●姙婦の福音● 産室を新設し入院及往診分娩の依頼に應じ候 京城明治町 電話二二番 漢城病院

文房具 和洋紙 測量器械 シンサキ本店 京城本町一丁目郵便局前 並買次營業申候

醫學士 伊藤應隆 耳鼻咽喉科專門 診察時間 自午前九時至午後五時 京城日ノ出町(日ノ出橋際) 伊藤耳鼻咽喉科醫院 (電話三〇五番)

寫眞器 東京神田區通新石町 新古器交換 進々堂本店 振替口座

▲病室落成▼ ▲入院隨時▼ 時間 每日午前八時ヨリ正午迄 月水金午後四時ヨリ六時迄(每日曜及大祭日休) 京城 旭町壹丁目六十七番戸(電話六九二番) 一般外科診療 鈴木外科醫院

六百六號注射の需に應ず ワッセルマン氏梅毒有無の診斷法を始む 前大韓醫院外科主任 鈴木謙之助

多田不動産信託所 京城太平町二丁目南大門北入右側電話二二一一番
當所は太平町南大門北入右側新築落成
質店は太平町南大門北入右側新築落成

内外科 小兒科 梅毒淋病 入院隨意 京城壽町二丁目 高井醫院 院長陸軍軍醫正 高井貞治 電話二一六

京城新報

司法權の獨立

▼仁川疑獄に關し

今回の仁川疑獄事件は端を取引所の醜態に發し同地知名の人々拘引せられ幵が家宅捜索の結果關係範圍愈々擴大して現に統監府某々高官に賄賂の事實さへ發見せりと傳へらる、其眞僞は暫く措いて問はざるも兎に角容易ならざる一大事件たるや明かなり、然れば本事件に對する世人の注意は單に在半島の日鮮人のみに非ずして遠く母國に及び延ては又併合後則ち治外法權撤去後に於ける最初の出來事として外人等の視聽を惹き吾司法權の作用及司法官の擧措果して如何ふらんかと極めて精細に其進行を觀せられつゝありといふ蓋し偶然にあらざるなり。

思ふに這般の疑獄は之を有耶に附すれば遠く數年前に胚胎し其今日あるは何人も見て以て豫期せる處なり換言すれば其今日迄等閑に付せられしは寧ろ不思議とすべき所以なりとす然るに今回當局者が遂に此英斷を敢へてするに到れるは此間到底忍ぶべからざる一大理由あるに因らずんばあらず、見よ本事件發生せしより世間一人の批難を言ふものなく殆んど一樣に當局者の英斷を謳歌して以て其公明なる處置に信賴せるに非ずや、然るに兩三日來尙ほ忌む可き風說余輩の耳朶を衝て頻來し頗る怪訝に堪へざるものあり、他なし本事件の審理漸く進行すると共に關係範圍擴大し波及の程度亦測り知るべからずと稱し早くも有力筋より之が揉み消し運動起れりと云へる事是なり、嗚呼果して然るか若し然りとすれば決して輕々に之を看過する能はず、蓋し斯かる風說の因つて傳唱せらるゝ所以のものは其關係範圍大に汎く元統監府高官に及べると共に一方朝鮮に於ける司法權の獨立及び司法官の位地保障尙ほ甚だ薄弱なるが如きを以て或は爲に其根底に動搖を來すべしと疑ふが故なり、元來本事件たるや余輩を以て之を觀れば必ずしも天下の一大事に非ず謂はゞ一地方の一出來事と目すべく隨て彼等四五の醜類が如何に處分せられ或は又此々類例多き證據不充分の下に免訴となるも毫も顧せざるなり、然れども本事件の結果如何は滔々頽廢せる風紀保持上に甚大の關係を有するのみならず他の一方に顧みれば治外法權撤去後に於て特に外人等の注意を惹ける一事件たるを以て必ずしも輕視し能はざるなり、又更に朝鮮人に對しては從來半信半疑の裡に彷徨しつゝある彼等の裁判觀をして一層憂ふべき傾向に導くの恐あるを以て飽くまで其公明を望むで已まざるなり。

而して仁川疑獄は上述の如く世間の視聽を集めたる近來の大事件たる丈け若し此間一點疑を抱かしむるが如き事あらば實に由々敷一大事にして千秋の恨事を遺すものなり、如何となれば治外法權撤去に對しては外人等は尙ほ慊焉たらざるものゝ如し、隨つて多少の理由を發見すれば之を口實として不服を訴へんと潜かに注視しつゝあるは事實なり、聞くが如くんば併合後治外法權撤去の通告を列國に與へたるに之に回答を寄せ來れるものは獨り淸國あるのみなりと固より通告は自主權の發動なれば回答の有無は重きを置くに足らざるも斯くの如きは余輩の聊か遺憾とする處たらずんばあらず、此場合に於て微々たる仁川問題の爲めに彼等外人をして乘ずるの機あらしむるが如き事あらば折角鄭重を極めたる三審制度も又公明なる吾が裁判の實績も其信用地を拂つて去るに到るべきを恐る此際職を朝鮮の司法に奉ずるものは其地位の保障如何等に頓着なく斷々乎として司法權獨立の爲めに身を捧げ公明なる審理判決を下して其神聖なる所以を實地に示されん事を望む、而して這般風說の如きは吾裁判の前には永久に頭を擡ぐるの餘地なからしめん事を望んで止まず。

東京電報（十四日）

▲救恤金と衆議院 今回陛下より御下賜になりたる貧窮救恤金に就き十四日衆議院に於ける各派は協議會を開き豫算案補塡會議に付す

▲富豪等の發奮 三井、岩崎、澁澤等の富豪も御下賜金に奮激して近日協議會を開く筈なり

▲慈善家の表賞 慈善事業家二十四名十三日表賞せられたり

▲遣英武官決定 英國皇帝の戴冠式に參列すべき我武官は左の如く決定し一兩日中發表さるべし
陸軍大將伯爵 乃木希典
陸軍砲兵中佐 吉田豐彦
海軍大將伯爵 東郷平八郎
海軍中佐 谷口尙信

▲織物税廢止運動 織物税廢止期成同盟會は本日午後二時より織物業者組合樓上に於て評議員會を開き

▲日韓瓦斯總會 日韓瓦斯電氣株式會社は來る廿八日第一回定時總會を開き損益計算を附議す

▲鐵道調査會新設 廣軌案は尙熟議研究を要するを以て延期となりたる結果桂首相は鐵道改良調査會なるものを設立し各當局●同系議員中より委員を採任し之が調査研究を重ぬる筈にて該調査會の經費等に就て調査中なり

▲政府彈劾案提出 國民黨は三税廢止案政府彈劾案を提出することに決定したる爲め多少の內紛ありて脫會者一名あり

▲協同防疫委員會 大島都督と錫總督と會見の結果日淸協同して防疫委員會を設置することに決定したり尙ほ日本赤十字社救護班派遣方を大島都督より請求し來れり

▲北里博士門司發 北里醫學博士、江木拓殖局第一部長は十四日門司出帆の天草丸にて渡滿の途に就きたり

▲平塚在の大火 平塚在に大火あり戶數四百二十五戶燒失して一村全滅す

雜報

麻田患者の病名

▽ペストにあらず

昨紙所報の麻田、德積島發性の怪患者に就き其後の來電によれば何れもペストにあらずして麻田は熱病德積島は窒扶斯たる事判明せり

●船舶檢疫數 過般來吾稅關に於て鼠疫豫防の爲め船舶檢疫勵行し來れるが去る一日より八日に至る船舶檢疫數を記せば左の如し

仁川	滊船	四	帆船	一隻
釜山	滊船	二十三	帆船	なし
馬山	滊船	なし	帆船	四隻
木浦	滊船	二〇	帆船	なし
元山	滊船	一	帆船	なし

●長崎鼠疫に就て 長崎入港の英國滊船にペスト患者發生したる旨傳へられたるを以て度支部長官より長崎港務部へ其の眞僞を照會したるに十三日午後左の如き返電著したりと 英國滊船のペスト患者はセダロン乘船パタビヤへ航行中發生し一月二十一日同地に上陸せしめたるものにして該病の系統は乘船前感染せしものと思はるゝ因に釜門港務所は勿論他へも相當手配を爲すべき旨內約し居る由なれば今後は斯かる危險はなかるべしと

●高陽郡の巡回講話 京畿道高陽郡にては郡守、郡守事、憲兵分遣所長等協議の上毎月村民の休業日を利用し巡回講話をなすことになり既に第二回之を實行したるが成績頗る良好なりと云ふ

●藤田院長の歸任 防疫事務視察の爲め過般來平安北道地方へ出張中なりし藤田醫院長は十三日午後歸任したり

●松永中將の歸任 平壤鎭南浦地方守備隊巡視の爲去十二日太田中尉を從へて出張せる第二師團長松永中將は本日歸任すべし

●定例長官會議 十四日午前十一時より定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富司法部長官、宇佐美內務部長官、明石警務總長、小城鐐道局長官代理、岡本通信局長官代理、小松外事局長、鈴木司稅局長及菊地農商工部長官代理等列席政務に關し打合せする處あり午後一時散會したり

●舊補助貨の引揚 舊韓國政府時代より度支部に於て管掌したる朝鮮の貨幣整理は既に結了したる事業を以て來る三月末日限り貨幣整理事業を閉鎖する筈なるが尙ほ政府は現在の補助貨を引揚げ之に替へるに日本の補助貨を以てし而して韓國銀行券の發行は從來の如くし恰も臺灣に於ける貨幣制度と等しくせしむることゝなりたり因に政府より今回補助貨三百萬圓を移入して韓銀現在の補助貨は政府に回收する由なり

●新舊公債處分 朝鮮に於ける公債は併合の結果として日本政府より借り入れたる分は目下議會の問題となり居れる貨幣整理資金債三百萬圓(第一銀行借入れ)第一起業資金債五百万圓(興業銀行借入れ)第二起業資金債一千二百九十六萬三千九百二十圓(興業銀行借入れ)起業公債百萬圓にして是等の公債は大藏省豫金部借入れ本年三月迄に悉く使用し終る筈なるが貨幣整理に關する分は大藏省の所管となるべく殘りの分は悉く朝鮮の特別會計として處理し四十四年度よりは例の五千六百萬圓にて處理する筈なりといふ

●監獄作業所新設 從來朝鮮に於ける監獄は一坪に付き七人名を收容し作業に關する設備等は殆んど皆無の有樣なりしが其筋にては來年度より囚徒の作業所新設の計劃あり全道に約八ケ所を設置する筈なりと

●土地調査の進行 土地の調査に就いては三角測量を始めとし其他の施設着々進行中なるが最初に模範調査として富平郡に着手せし以來漸々進行し來りて四五日前よりは水原に調査の着手を爲したる由にて調査局の調査部長たる佐々木書記官は十三日水原に出張し面里洞長等約二百名を招集し土地調査に關する一切の訓示を與へたりといふ

●朝鮮貿易旬報 門司 門司、下關兩港に於ける二月上旬の朝鮮貿易を表示すれば左の如し(單位圓)

▲門司港

	二月上旬	一月以降累計
移出	五二、三四五	二三八、九七〇
移入	八、一四三	九七、三八〇
移出入合計	六〇、四八八	三三六、三五〇
移出超過	四四、二〇二	一四一、五九〇
▲重要移出品		
精糖	一、〇〇〇	二、〇〇〇
清酒	……	一、一八七
綿糸	……	二、五六〇
綿織布	二、一四三	五、八三三
▲重要移入品		
大豆	六八、八九三	三六八、六三三

▲下關港

	二月上旬	一月以降累計
移出	三六一、九三七	一、六四五、四四三
移入	七八、七三三	三一八、二〇五
移出入合計	四四〇、六七〇	一、九六三、六四八
移出超過	二八三、二〇四	一、三二七、二三八
▲重要移出品		
精糖	一六、二七〇	一五五、五二〇
清酒	……	四七、二七七
綿糸	三九、一六七	一四九、六〇二
綿織布	九〇、九六八	四〇一、六九五
▲重要移入品		
大豆	四三、〇七六	一八〇、二九一

●棉花栽培會社 同株式會社は資本金五百萬圓を以て朝鮮に於て棉花の栽培及賣買棉花の賃繰業倉庫業及金融業を營まんとする目的にて計畫せられたるものなるが今回發起人の一人なる佐久間福太郎氏は關西地方の發起人勸誘並に其他の準備の爲め下阪し目下奔走中なりと尙ほ橫濱方面の同會社發起人の重なるもの左の如し
▲東京 日比谷平左衛門、和田豐治、佐久間福太郎、町田豐千代、森田茂吉、田村正寬、濱口吉右衛門、星野錫、秋岡義一、佐竹作太郎、角田眞平、中野武營、山本梯二郎、根津嘉一郎、藤山雷太、高山長幸、大橋新太郎、小野金六
▲橫濱 大谷嘉兵衛、若尾幾造、平沼專藏、左右田金作、木村利右衛門

●朝鮮の棉花事業 明治三十八年朝鮮に於て米國種陸地棉栽培の好望なるを認め朝野の有志相謀り棉花栽培協會を組織し其栽培繁殖に關し大いに研究する所あり爾來六箇年の星霜を經過し各種の方法に據り實驗せし結果は左の事項を確認するに至れり
一、陸地棉種は朝鮮の風土に適應する事
一、陸地棉種は朝鮮在來種に比し收獲多量なる事
一、陸地棉は在來種と同一の栽培方法を以て耕作するも尙其收獲多量なる事
一、陸地棉種は多量の肥料を要せざる事
一、陸地棉種は在來種に比し繰棉步合類る多く且纖維細長にして品位優等價格も亦高値なる事
一、陸地棉種は他の農作物に比し有利なるを以て一般に之を歡迎し其普及は迅速なるべき事

棉花栽培協會の事業開始の初年度に於ては僅に四十五町步に過ぎざりしも第二年度は六十五町步に第三年度は百九十六町步に第四年度は四百町步に第五年度は一千二百町步に累加せり而して第六年度たる明治四十四年には少くも二千五百町步に栽培せられんとす其速步實に驚くべきなり而して棉花の集散地なる木浦に於て明治三十九年繰棉工場を設置し輸出の奬勵をなしたる結果今日に於ては既に三ケ所の工場設置せられ我國に於て需用する紡績の原料として一昨年十月より昨年五月迄に約一百萬圓の棉花を供給したり尙ほ朝鮮に於て棉花栽培に適すべき地積に就いて棉花栽培協會の報告書に據れば陸地棉栽培に適する京城以南、京畿忠淸南北、慶尙南北、全羅南北七道を通じて總畑地面積五十二萬三千四百九町步にして明治五十年には少くとも陸地棉種を十五萬三千六百町步に普及し得べく且つ耕作方法を改善せば其收獲を倍加し以て現今我國に於て需要する原料の大部分を供給し得べく加ふるに統監府は棉花栽培の政策に重きを置き特に臨時棉花栽培所を設置し以て陸地棉の普及を圖るに努力し總督府も又其政策を繼承し種子の精選耕作の改良水陸運輸の利便を進め特に棉作地を縱斷すべき湖南鐵道の速成を期し間接直接に斯業發達の便宜增進に努めらるゝを以て豫期以上の成績を擧げ近き將來に於て東洋の一大產棉地たるに至るべきは毫も疑を容れざるなりと

●韓銀株第二回拂込 韓國銀行にては來る二十四日の株主總會を終りたる後第二回株金の拂込をなさしむることゝ內定したる由なり

●京城辯護士會 明治四十三年制令第十二號に依り成立したる京城第一辯護士會にては去る十二日午後四時より日本人商業會議所內に通常總會を開き役員の選擧を行ひたる結果左の七氏當選就任することゝなれり
會長 大久保雅彥
副會長 中村時章
常議員會議長 大崎熊之雄
常議員 岩田仙宗
同 岡田榮
同 木尾虎之助
同 白井勝悟

●組合學校の設立 南平學校組合設立方豫て南平郡內面東村面外十二面より設立認可申請中なりしが十四日組合設立を認可されたり

●討伐記念朝鮮亭 韓國暴徒の討伐に際し第十二師團步兵第四十七聯隊及び步兵第十四聯隊の暴徒討伐の戰死者招魂祭剩餘金を以て記念の爲め小倉の陸軍偕行社內へ建築中なりし朝鮮亭は來る三月十日の陸軍記念日迄に竣工せしむべき豫定なり額面の朝鮮亭の三字は寺內陸軍大臣之を揮毫したりと

●門司驛內陳列館 門司驛內の物品陳列棚は頗る好評にして目下第二號館を建設準備中なるが既に三十二區域の申込者あり廣告部は七區域を餘すのみとなれり而して該館の建設は來月末なるべしと

●廣島縣の觀光團 代議士荒川五郎氏の發起にて廣島縣の青年を以て觀光團を組織し今夏七月二十二日京城へ着する筈にて縣下の郡長一名之に加はり新義州平壤等を巡視する由なり

●服部暢氏の退社 滿州日々新聞編輯長たりし同氏は今回都合に依りて退社したり

●安部充家氏招待 國民新聞社理事安部充家氏今般來城に就き當地新聞通信記者並に特派員の有志及知友は十四日午後六時より同氏を花月樓に招待し晚餐會を開く由

街路擴張問題

（古城民長談）

京城本町通街路擴張問題は客臘の民會に其聲を擧げ爾來民團にては取敢へず實地の測量を了へ一應の概算を定めたり其結果によれば本町通の市區擴張に伴ひ別に補助街路新設の必要あるを認め其新線は南大門市場裏通より度支部長官々舍を貫き旭町二丁目不知火旅館橫手に出で更に同三丁目を橫斷して天眞樓前通へ出づるものなり而して本町通は一丁目より八丁目までを六間道路に擴張するものなるが此經費概算は約百萬圓を要すべし今此計劃に關し古城民長の語る處によれば現在市區の狀勢は早晚一大整理を行ふの必要あるも何分にも以上の如き巨額を要するを以て之が施行如何に就ては今漫りに明言する能はず假りに之を施行するとしても先づ以上の經費は借款に據らざるべからずして借款に就ては幵が利子の仕拂及償却の方法を詳具し當局官憲の認可を乞ふの要あり然るに現在居留民の實勢及經濟狀態にては果して此の大負擔に堪ゆべきや否や大に疑問なり換言すれば以上の借款を起さんか別に新稅を負擔するの覺悟なかるべからざるを以て斯かる大計劃は輕卒に之を斷し難し若し夫れ道路計劃の遂行に就ては豫め市區改正調査委員會を設けて十分の調査を遂げ更に其會計は特別とし之が事務の如きも臨時特設の機關に依らざるべからず又民團自身に於ても之を發表せんとするには遠退を踏して爭ふまでに會心の計劃を立てざるべからず然れば該問題の前途は未定數の裡に任りと知るべし云々

▲仁川港の出入船舶▼
▲大信丸 十五日大坂へ向出港
▲勝利丸 同 大坂へ向出港

▲京城手形交換高▼

二月	金高	枚數
三日	一六五、一〇〇、六六	一八七

▲治外法權▼ 名ばかりが大層な大日本勸業株式會社の株式募集が內地朝鮮を通じて失敗に了つたのは豫期された事で、發起人が發起株を振捨て贊成人が贊成株を卻けたのは近來の快事だ、事茲に到る、公衆が募入に應せざりしは當然の事だ▲コウなつて見ると目賀田男は偉らい、彼れは妖怪加藤增雄の徒が男の盛名を空株募集附けに濫用することを許さなかつた▲仁川の疑獄事件、其後の進行はドウダイ、道途傳ふるところに因れば同事件に關し各方面から司法官に向かつて歎願、揉消し夫々の運動が始まつたソウだ、併し春川司法官は硬骨の人だ、歎願も揉消しも何の運動も彼れの前には無効だ▲東拓の鮟鱇が毎日毎日吾人に新聞種を供給して與れるのは難有い事だ、されば吾人も鮟鱇の親切に酬ひんとて毎日每日同社のアラを書くのだ▲同社桑山灘に於ける籾買入札の失敗、其顚末は昨本紙所報の通りで士族の商法何とも云へない話にならぬ事だ、併し鮟鱇には失敗の源因が判らぬ、彼れは今以て軍隊的に命令を以て籾を買捌かんとして居る▲鮟鱇の部下井上某が內地の軍隊から招聘されて殖民講話をするとの噂がある、イヤハヤドウも言語同斷▲同業京日が其本家國民新聞社と連合して朝鮮實業視察團をヤルのは結構な事で記者は双手を擧げて贊成する只茲に望んで置くのは同視察團が滊車賃や宿料を踏倒さぬ事と、同團の貧乏人に因つて組織された團體を以て我京城は勿論半島各地に乞丐的喰倒をさせぬ事だ▲由來視察團とか觀光團とか云ふ者は名は立派でも實は道者的旅行者であるのだ、が故に動もすれば彼等は到處を平氣で喰倒し而かも恬然として旅の恥を播捨てにするのだ京日社の企て至極結構ではあるが此邊の事に前以て留意すべきであるのだ▲京日社と云へば其新監督阿部充家が來た、阿部は禪門の人、正直に云へば掃溜の京日には鶴だ。

相場電報

（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（三月限）（前場）（後場）

	前場	後場
▲京坂同	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇
▲電鐵同	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇
▲大阪同	六八、九〇〇	六八、八〇〇
▲紡績同	六八、九〇〇	六八、九〇〇
▲電燈同	一〇七、五〇〇	一〇七、三〇〇
出來不申		

	前場	後場
▲大坂同	一三〇、六〇〇	一三〇、九〇〇
▲株式同	一三〇、三〇〇	一三九、九〇〇
▲同直同	一二八、八〇〇	一二八、五〇〇
取引同	一二九、一〇〇	一二八、六〇〇

▲大阪期米

當月寄出來不申▲止九錢▲三月寄十五圓十九錢▲止十七錢▲四月寄三十一錢▲止三十二錢●十四日前場當月寄出來不申▲三月寄十五圓二十錢▲四月寄三十三錢

圓八十錢▲最高低止同上▲四月寄十圓四十九錢▲最高六十錢▲最低四十九錢▲止六十錢●十四日前場當月出來不申▲三月寄十圓八十一錢▲最高八十四錢▲最低八十

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客 十三日の分 乘車客 四四九 下車客 四七〇 乘車賃金 一〇八二、六四
▲南大門驛荷扱高 十三日の分
▲龍山驛の乘降客 十三日の分 乘車客 一七一 下車客 一四八 乘車賃金 二四一、〇四
▲龍山驛の貨物 十三日の分 發送 二噸 到着 三五三噸

△辻川岩十郎（滿韓日報記者）櫻屋へ
△宮常八（總督府）太田旅館
△鮎川新（李王職事務官）十三日東上

●賊徒五名の逮捕 此程平山郡

▲大阪株式（明治町西村支店着電）（三月限）

（前場）寄 三八、六〇 引 三八、七〇

（後場）寄 三八、六〇 引 三八、六〇

▲紡績 同 六八、九〇 六八、九〇

▲大阪 同 一〇七、五〇 一〇七、三〇

▲電燈 同 一〇七、五〇 出來不申

▲東京 同 一一五、五〇 一一四、六〇

▲株新 同 一一五、五〇 一一四、五〇

▲同取引 同 一二九、一〇 一二八、六〇

▲大阪期米 ●十三日前場當月出來不申▲三月止十五圓二十一錢▲四月止三十一錢▲後場▲止三十二錢●十四日前場當月出來不申▲三月寄十五圓二十錢▲四月寄三十三錢

▲仁川米豆取引 ●十三日後場當月出來不申▲三月寄十錢▲止六十錢●十四日前場當月出來不申▲三月寄十圓八十一錢▲最高八十四錢▲最低八十一錢▲止八十四錢▲四月寄十圓六十三錢▲最高六十三錢▲最低五十五錢▲止同上

▲南大門驛荷扱高 十三日の分 乘車客 四四九 下車客 四七〇 乘車賃金 一〇八二、六四 發送 四三〇噸 到着 二四八噸 貨物賃金 七〇五、五三

▲龍山驛の荷扱高 十三日の分 發送 二噸 到着 三五三噸 貨物賃金 二八七、三二 公人 私人

活動寫眞　楓面子

十四日 朝の南大門驛

明け渡る空は曇りて沈鬱の氣が漂ふ、街區行く人はと見ればチゲのヨボと腰辨君の急歩とのみである、あゝ、ヨボの喘々たる氣息と、小役人の跛躄ぜる京城は、惜ひ哉經濟的の要素に乏しい、生產的の商工業を興隆せしめざる土地及び國家が能く發展し膨脹せし例は未だ曾て絶無である、京城否な朝鮮の前途は、必らず生產的の開發に俟たねばならぬ、一種の感慨に驅られて、停車場に入れば案外の寂寞でたゞ暖爐の火のみが赤い、待合室には、高橋孝治、伊知地直七とかのカバンが散在して、一隅にヨボ先生一人の婦人を拉して、窃かに其の艶福を誇るものゝ如く或は寄り或は放れ、喃々笑語、見るに堪へざるものがあつた、午前九時、晴れやらぬ空に響く汽笛を殘して緩かに釜山行の列車は放れ、同九時十分、新義州行列車も、輕く搖ぎ出した、驛邊人去つて郊外の風物、只徒らに落寞、爲聲遙かに消へて風漸々たりである

●姜基東逮捕さる

京畿道楊州地方に於ける賊徒の首魁姜基東に關しては其都度屢々報道したる如く昨秋楊州憲兵隊にては懸賞金五百圓を以て逮捕方を奬勵したるが爾來嚴重なる捜索の爲め彼れの勢ひは日に蹙まり近頃は山中深く影を滅め夜間私かに下山して飲食をなすの窮狀に陷りしが多年掠奪を恣にし併も其出沒隱顯の妙を極めたる彼れの惡運も茲に全く盡き果てけん十三日夜元山に現はれ朝鮮の料理店ならば直に發覺の怖れあるより姿を變じて內地人營業の料理店東樓と云ふに登樓し何喰はぬ顏して豪遊を極め居るところを元山警察署に探知され遁の賊魁も亦抵抗の力なく難なく逮捕したる旨十四日其筋に電報ありたるが尙ほ本人は實否を確めんが爲め姜基東は文身し居るより右實檢すべきやう折返し電報したるに程なく文身存在の返電あり全く本人相違なきを確めたりと尙は本部の行動に就ては屢記載したる事あれば煩を厭ひ省略せんが彼れは元朝鮮新兵伍長にして併合後我憲兵補助員を勤めたる事もあり常に洋服を着し日本語には頗る通曉し部下の者とは二十五六名ありて何れも同一の洋服を着し居れりと云ふ

●朝鮮かるた大會

京龍仁の各團体聯合して陽春三月の候を卜しかゝる大會を開催すべき計畫ある由は昨紙所報の如くなるが右は愈々議熟し期日は三月第二日曜日と決定したるが會場は未定なりと

因に昨報かるた戰記事中受賞者の所屬團体名に錯誤ありたるを以て訂正す

一等永田(漢江)二等松岡(通信局)三等馬路(通信局)四等蒲田(龍山)五等草野(漢江)六等有馬夫人(仁川)七等田邊元山(貫)八等大前(仁川)九等涵島(永登浦)十等梅屋(漢江)十一等古賀(通信局)十二等荒牧(漢江)

●民團醜吏の公判

旅報民團醜吏末廣幸作外五名の橫領犯罪事件は十三日午前十一時京城控訴院刑事部大法廷に於て補裁判長寺田檢事の係りにて公判開廷せられ被告等は長き月日の獄舍住ひ悄然として法廷に立ち被告辨護人としか木尾岩田中村岡田大崎永井北島の七辨護士出廷す傍聽人は被告人等の妻君連若しくは親族知友其の他八十餘名傍聽席は立錐の餘地なき程の大繁昌裁判長は各被告人別に事實の審問を爲し終つて證據調に移り辨護人より前熊谷民長同林田助役並に被告等が橫領金浪費先たる新町遊廓大桝屋樓主北野竹次郞及娼妓其の他京城樓主酒井三雄外數人を證人として召喚取調あり度き旨申請之に對し寺田檢事は全然必要なしとの意見を陳べ裁判長は該申請を却下し來る十七日檢事の論告辨護人の辯論を續行す可しとて午後五時二十分閉廷したり

●獵夫人を擊つ

愛媛縣宇和郡三島町千四百三十三番地當時大和町三丁目三番戶赤松輝一(三〇)は狩獵を業とする者なるが一月十五日京畿道楊州郡西村面に狩獵に行き同日夕刻同地朝鮮人宿崔春植方に投宿の際不注意にも銃口を東入口の方に向け前夜彈藥の抽出を忘れ裝塡の儘なる銃より彈藥を押出んと爲す際過つて發射せし彈丸は客人たる曹長根に命中し爲めに十六日午後十一時死亡せしより過失殺人犯として檢擧され京城地方裁判所に於て罰金百圓に處せらる

●高麗燒泥棒

佐賀縣杵島郡北方村當時住所不定內田貞吉(二五)兵庫縣兵庫市新田町二丁目當時住所不定服部茂(三〇)三重縣安濃郡明合村東觀音寺四百三十一番地當時住所不定內田藤四郞(二八)岡山縣苫田郡小田村近塚當時住所不定々久近太郞(四四)の四名が墳墓發掘事件にて京城地方裁判所に於て處刑せられたる犯罪事實を聞くに貞吉は高麗陶器類を領得せん目的にて一月八日九日の兩日に京畿道豐德郡々北面蓮洞里を距る東北二十町の山中に於て朝鮮人の墳墓二ヶ所を發掘し該墳墓各棺內より鏡二個を取出し又貞吉茂の二名共謀前同一の目的、イ前記山中に於て墳墓發掘、藤四郞茂共謀して同郡四名共謀にて同地藍寺洞を去る北方二丁目の山中に於て墳墓發掘したる事件にて藤四郞は懲役一年六ヶ月貞吉は一年茂、近太郞外二名は各三ヶ月に

獸肉鑑別の方法

▲牛肉と馬肉　目下の處朝鮮にては此の憂ひなきも內地にては牛肉に馬肉を混ずるは普く行はるゝ通弊なり滋養の點より論ずれば牛馬の肉敢て大差あるにあらず然し廉價の馬肉を以て高價の牛肉に混ずるは奸策なり故に今其鑑別法を述べん牛骨は馬骨に比して概ね廣く大なり馬の肋骨は細長にて彎曲し異狀を呈し其數十八對なり牛の肋骨は扁平にて巾廣く其數十三對なり馬肉を牛肉に比すれば暗赤色を帶び稍々柔軟にして筋纖維細く纖維束は分離し易くして牛肉の如く固實ならず又馬肉を大氣に晒せば其色速に變化し表面乾燥すれば紫色より藍色の光彩を放つ又馬肉にして筋肉間に脂肪を雜へ大理石樣の外觀を呈するは稀なり馬の脂肪は牛の脂肪に比して其溶融點低し故に馬肉を混せる牛肉を鐵鍋に投じ水を加へて煮沸すること半時間にして放冷し液面に浮上する脂肪を檢すれば牛脂は冷却して白色粒狀の凝固塊を生ずるも馬脂は尙は流動して油滴をなす馬肉汁は牛肉汁の如き佳香味を有せず

▲豚肉と犬肉　豚肉は時として犬肉を以て擬することあり犬肉は豚肉よりも色彩常に濃厚なり煮沸後に於て殊に然り又犬肉は粘着性を有し脂肪に乏しく一種固有の臭氣あり平素肉食せしめたる犬肉は殊に甚し犬脂は二十二度半の溫度に溶解するも豚脂は大約四十度に於て溶融すべし

●私藏銃器の押收

高陽の衙把撥里分遣所にては特別警戒巡視中去十二、十三の兩日左の私藏銃器を發見し直に押收處分をなせり

元堂南星羅山里五統二戶　柳　享　七(三六)

支那單發式銃一挺　同　元興里三統七戶　朴　順　明(四六)

火繩銃(一名朝鮮式)單發式一挺

尙は聞くところによれば柳は該銃器を薪の積載したる中に密藏し朴は自宅の家根裏に隱匿し居れりと

●德壽宮の鼠狩

德壽宮周圍の狀態に民家に接近し各方面に通ずる溝渠多きを以て自然鼠族の往來を爲す形跡ありとて之れが交通遮斷の爲め宮邸內外の滯渠三十四ヶ所、鐵網(四十五ヶ所)を布設し一方宮邸の鼠族狩を盛んに勵わしつゝありと云ふ

●明石總長の賞電

別項の如く賊徒の首魁姜基東の逮捕に付き十四日午前左の電報を發して元山警察署の功勞を賞揚せり

元山警察署　賊魁を逮捕したるの報告を得、警察署の功勞を賞す

●御奇特な王家屬

李王家屬永樂町三丁目居住丹羽賢太郞氏は捕鼠懸賞に五等一圓に當籤せしより右を公共團体へ寄附申込たるより南部署に於て夫々手續中なりと

●龍山の自衛消防

龍山漢江居住の有志者は一昨年來自衛防備の爲め自費を以て消防隊を組織し居れるが十三日午後一時より舊曆にて出初式を行ひ警官其他の臨場ありて盛會なりし

●各署の鼠買上數

各署十三日買上數西大門分署三六三東大門分署三一〇南部署二三六北部署二一九銅峴分署二〇四水門洞分署一九〇龍山警察署二十同憲兵分隊二十三

●捕鼠器寄附　龍山元町三丁目衛生組合長依田文吉はペスト豫防の爲め鮮人貧困者に分興すべく捕鼠器五十個を警察署に寄附したりと奇特と云ふべし

●仁川鼠買上高　十三日買上數百六十三頭にて四圓八十九錢

●浮土宗開敎院の涅槃會　明治町の同院にては十五日は釋尊の涅槃日に付き例年の通り午後七時より法要說敎を執行する由

●日韓禪寺の涅槃會　花園町曹洞宗同寺にては十五日午後一時より釋迦牟尼佛入滅の御忌法會執行說敎和讃あり參詣隨意

●高野山の涅槃會　新町高野山光雲寺に於ては十五日午後一時より敎主佛陀の涅槃會執行開敎師金武順道師の法話等あり尙當日は寒行中の淨財を以て新調したる鰐口の釣初式を行ふ由

●演藝だより

●歌舞伎座　好人氣なる男女合同劇一座十五日の藝題は檜山騷動相馬大作

●京城座　引續き好評ある兄弟義團十五日の藝題は替玉吉五郞全七幕十三段返しにて花々しく開演の由配役は家令坊城忠輔(岩村)北小路(花房)曙れ龍(堀江)家扶綾部龍之助(吉井)今出川宮子(塚本)同公武、吉五郞(松澤三郞付人太田原、藤澤三郞家令高坂吾市(小泉)下男善助(江見)聖天喜平(谷)

●浪花館　毎夜大入續きなる大坂女義太夫越之助一座十五日の語り物は御祝儀寶入船(入登)鎌倉三代記八ッ目(濱助)二十三間堂平太郞塲(越濱)御所櫻三ッ目(若大)れ駒才三鈴ヶ森(土佐濱)忠臣藏八ッ目(源八)日蓮記三段目(高助)先代萩御殿(當十歲越子)白石噺七ッ目(越之助)白浪五人男(掛合　三味線鶴澤大三竹本三越

たゝみや

ペストと大掃除

京城の眞夜中

みや生

佛のあるところに鬼が住み鼻頭の冷たい奴が熱鬧の地に軒を並べ薄暗い物蔭より白首あらはれて赤毛布思はず青くなるも道理その長谷川町より大平町一圓に巢を構へ化物ばかり立籠りぬ、日蔭の橫道拔路には人間の緣を放れし白粉氣の動物料理店の軒提灯を吊せし中に小田の蛙の鳴き損ねし如き聲を發して巡査の目を忍びながら頻りに自已が分相應の客を呼ぶ纔、飢へたる猿の餌を爭ふに似たり、

京城婦人病院の前通りを眞直に電車道へ滴の屋と云ふ料理店の前まで掛つた今しも十二時の鐘が暗の空に冷く響いて世の中は森閑と更け渡つた、此からが惡魔の猛威を振ふ時である

惡魔と**暗**とは親類である、時計の響が暗空に搖曳して未だ全く消わやらぬ時、傍に居た、辻待のヨボ車夫が「ヨンガミさん車、如何ですか」とおやしい日本語で乘車を薦める、よし來た、と價ひも定めず、行先きも云はずに飛び乘つた、車夫は梶棒を上げて二三歩ふみ出し（何所ですか）と言はれて自分も氣が付き「新町」と言ばオットがてんと車夫は壞れた車輪を引き廻し始めた、かまぼこ屋と元車宿の橫丁を民團役所の前から一直線に**本町六丁目**のドクトル中村齒科醫院とした看板の掛つて居る所まで來た時「ヨボチヨッソ」と言ば「新町アニカ」といぶかしそうに振り向いてなか〳〵梶棒を下さぬ「チョッソ〳〵」と車上に立上ると「ビックリ」して梶棒を急に下す二十錢を與ねて直ぐ右へ曲り左へ更に右へ突當ると**ぜんざい屋**があくびし乍ら客待顏に立つて居る、云ふのを忘れて居たが予の變裝は先づこうである洗ひざらしの紺足袋に日和下駄四十位の人が着る赤ばげた銘仙の着物に同じカガスリの羽織其上へ古ぼけたインバチスを羽織つて、頭は防寒用の鳥打帽を言ふ扮裝、片手に洋傘、片手に小さな風呂敷包を持つて元軍司令部前に忽然として現れた時、正に、

午前一時

夜は更けて屋上に霜の白きを見る十二時過、外套の襟を立てゝも身に泌む寒さ行違ふ**鍋燒**うどんの呼聲に釣り込まれて、オイ一杯くれ、と注文した**火の粉が霜の夜**の三尺四方位をバチ〳〵といろどる事、暫時、ヘイサラ〳〵、食氣ではなく何か材料になる心當りはないものかと斯くは注文したのである、うどんを半分は迄無理に平げて箸を置き一ぷく吸ひ乍ら色々カマを掛けて話し込んで見たが一向に話らぬ、此のうどん屋何を聞いても知らぬ、存じません、の一天張、是れでは駄目だと錢を拂つて步を東へ進めた、

今日の運勢

●二月十五日舊正月十七日八白丙辰大安滿△白諸事謹愼の事旅行會談婚姻談中裁縫交見込なし負傷生に留意の事△二黑●屈辱壓伏過事あり新事旅行に忌む他は進んで吉△三碧●取引業務上違錯異常起らんす婚談新事旅行協商移住組合の事に忌む△四綠●農林業に吉他は手扣への事務に起業起工婚談々判運動委囑結社團体の事に忌む△五黃●新事婚談に忌む他は進んで吉酒色投機的行爲を戒しむ△六白●旅行轉住婚談に忌む利益援助ある日業務上進んで吉△七赤●訂約條交談台婚談協同結社の事に吉色情の破れを戒しむ△八白●保證受印裏書協同新事旅行凶盜失遺失防ぐべし△九紫●旅行轉住に忌む他は進んで吉訴訟取組婚談取引交涉協合談合を始むるに好し（本町五丁目三一館判斷）

●賊徒五名の逮捕　……守備隊にては一網に五名の賊徒を逮捕したる由なるが右は金貞安の部下也と

廣告

物品購買廣告

書箱　大小百五拾個
椅子　壹百脚
卓子　四拾脚

右購買ス入札希望者ハ本月二十日午後一時當部ニ出頭入札スヘシ即時開札ス
但入札保證金ハ各自見積價格百分ノ五
尙詳細ハ本月十三日以後ノ朝鮮總督府官報及當部前ノ揭示ヲ見ルヘシ

明治四十四年二月十日

朝鮮總督府警務總監部

從來拙者の使用せし印章破缺せしに依り明治四十四年二月十三日以後楕圓形の印章を改造爾後同印章を使用するに依り此段廣告す

明治四十四年二月十三日　千競植　告白

恩給年金　利子期限　便者へ　**立替**
諸公債　現物**賣買**　保險
確實取引月一步五厘
京城中部壽進坊相思洞廿九統七戶　鍾路通り東洋生命保險裏丁南多屋
上州屋支店　電話九百五番

名灸治療　胃腸病　梅毒專門
一般病者は來れ何程重症にても請合全治せしむ
龍山元町四丁目　**昇龍齋灸治院**

ペスト豫防は鼠を捕るに限る
捕鼠器大安賣
多數御入用の御方は特に安價に御相談致可候
京城本町一丁目（長谷川町筋）
和洋金物　大工道具　打物一切　商
前田金物店　電話（一八六七番）

開業廣告

營業種目
裁判所　京城府　警察署　民團役所
諸届及申請書類一切の代書
京城本町一丁目民團役所前
小野萬平代書事務所（電話七〇五番）

眼科　日曜及祭日は午後二時迄
京城本町二丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院（電話三十三番）
前漢城病院眼科部長　醫學得業士　**江頭富雄**

●エールリツヒ氏新梅毒注射藥到着致候御希望ノ者ハ御來院アレ
●**內科小兒科**　外科花柳病
●**入院隨意**
京城旭町三丁目　**十全病院**　電話七三七番

TRADE MARK
複方アンチヘブリン
感冒解熱特效劑
四季の引かぜ、はやりかぜ、ねつ病一切、づつうの良藥
發賣元　京都市三条柳馬場角　**川杉資善堂**
藥價　二日分金拾錢　五日分金廿錢

代理店　京城南大門通三丁目　**新井藥房**　電話九〇四●一〇六八　振替口座京城十六番

●諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候 兼業 （明治製菓販賣小賣 陸軍官衙御用達） 京城本町三丁目 大坂野村德七代理店 田中友吉商店 電話九三九 振替電話（ク）

▲月經をつうお　子宮病を全治す●●●

月經閉止三四ヶ月の滯りを通じ其他月經不順より起る子宮病血の道、頭痛、食欲進まず、氣分鬱ぎ、逆上強く等の病を根治し、血のめぐりを能くす。

月經不順 最良新藥 二十世紀之新藥 母月丸

價　一日八錢半週分廿五錢一週五十錢 二週分壹圓、三週分壹圓四十錢

婦人に月經異變ある人持續させば靜血を下し子宮病に罹る憂ひ更になき良劑也

▲本舖 大阪心齋橋二丁目 丹平商會本店 支店 東京日本橋區町 丹平商會支店 ▲賣捌は東京市內其他各店に取次す

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城千六十八番、十六番

牛乳 許可 豐木差入所 其他購求品納入 京城監獄拘置監東隣 電話一八三〇 弊店の特色は叮嚀、精撰、勉强、廉價

辨當 御注文の際は弊店看板商標御注意を希ふ

梅毒新藥 懷中良藥 仁丹 本の○ 二大賣藥 代理店 京城南大門通三 新井藥房

☰ 歎願せり依て三一館の一を頒與一心堂と命せしめ盆器の寸法及ひ初學者修讀の初歩簡易の書册二三を指示購買せしめ極輕微の件に限り斷定判定留保付きにて占ひを許せり然るに爾後射利に急ぐに修習に惑り未だ其一班をだに究めざるに協言誇張紛々の辭を以て一時を糊塗修飾し妄に吉凶吝悔を云爲し痛く人心を茫惑する者也兹に破門を宣す 觀相易斷及教授 本町五丁目 三一館

南米倉町一心堂山內重郎 破門の激罪○甫め山內回有の生業無く妻子抱擁活計に苦み易に付ては些の修得も無き妻子の身分入門履歷受験は困難故特に看板揭揚教導受度と

本品は貧血症、肺病及之れに類似の消耗性疾患、神經衰弱、病後回復期等の症に卓効あるのみならず下痢に對し特効を有す 大瓶二圓 四十錢一圓 小瓶料八十錢 ▲送料委細は說明書無代贈呈す

ボビナイン 飲むだけ血になる ボビナイン

橫濱市境町 合資會社友田商店 振替口座東京一九三八番

朝鮮代理店 京城本町郵便局前 山岸天佑堂 振替口座朝鮮二〇三番 電話三七二番

朝鮮代理店 京城南大門通り 新井藥房

喜谷 寶丹散 東京中橋 本家 喜谷市郎右衛門

資本金五百萬圓 本店東京日本橋區吳服町 支店派出所（橫濱 天津 釜山 京城） 東京建物株式會社京城派出所 京城旭町二丁目百十五番戶 電話番號 一六八一番 營業科目 土地建物抵當貸附 月賦償却建物建築 土地建物賣買紹介

牛乳の大王 平山牧場 京城大和町一丁目 電話 一三三番

清正 政宗 正則 釀造元 上酒 小賣壹升に付三十錢 卸賣は特別割引可仕候 清酒 味淋 燒酎 釀造元 京城壽町三丁目 中井酒造場販賣部 並に日用食料品雜貨類 電話百七十七番 電話にて御注文の際は一升以上は店員をして速達致さすべく候

石炭 唐津石炭各種 平壤無煙炭 三池粉炭 筑後炭各種 撫順石炭 鍛冶屋用 粉炭 並に 煉瓦製造廉價販賣 石灰生石灰 フカシ石灰 製造販賣 仁川支那町一丁目（運輸部横） 八田利三郎本店 電話六十二番地 龍山元町一丁目 八田石炭部 八田利三郎支店 電話五五三番

世帶道具は何でも有り升 外に宅ノ酩酒、手ヨリ白米、和洋ローソク、上白シメ油、㊙醬油ハ特約品 右品質上等直段下等大勉强販賣仕候間續々御用命奉願上候 日用雜貨卸問屋 京城本町六丁目 西崎嘉七本店 電話二百十番 電器（ニカ）又ニ 振替貯金口座韓國七番

エールリッヒ、秦兩氏發見 梅毒新藥（六〇六號） 注射治療の需に應ず 花柳病痔疾專門 京城相生町南門渦横（電話二二九四） 京城梅毒病院 院長 醫學得業士 蘆田耕平

齒科診療 齒科醫 楢崎東陽 京城南山町二丁目（天與寫眞館跡隣） 電話千三百六十番

入院隨意 仁川病院 院長 醫學士 由利弘 副院長 醫學得業士 長尾乙二 慈惠會醫學士 尾上早見 東京醫科大學撰科專攷 菊池徹 藥劑士 常盤光雄 電話十六番

鍼灸治療 脚氣、リウマチス、神經痛、腸胃加答兒、腦病、小兒寢小便 其他諸病一切 治療可仕候 御報次第參上 京城曙町（取次電話一八七） 石川源太郎

●命中正確（當期の新輸入は從來と異り多大の特色ある良品なり） ●自働五連散彈銃（十二番 價百二十五圓） 大徹ハ多種の秘訣で精良なる銃と弾藥を撰むにあり 英國製二連獵銃（八番、十番、十二番、十六番方四〇番迄） 少年用 大人用 空氣銃（價二圓三十錢方價四十圓迄相揃）

護身用拳銃（價四圓方五十圓迄 自働拳銃三十五圓） 米國製單身獵銃（八番方四十番迄全備 價十七圓方九十圓迄） 百發百中 バランスの正しき新改良の二連銃に限る ●自働六連實彈銃（三十番 價六十八圓方） 構造堅牢 當店は斯界の爲め最も適切の銃を誠實廉價に供給す

內外銃砲火藥獵具大販賣 東京市日本橋通三丁目 日本銃砲店 電話本局六、三五七九、振替貯金口座二三三番

英國製二連獵銃 價三十圓以上 同 無鷄鶏新式 價廿五圓以上 同 エツクター式 價百六十五圓方 獨國無鷄鶏新式 價百三十圓以上 同三連銃 價百卅圓方 實彈散彈の兼用 八番雁鴨單身銃 價四十五圓方 米國軍隊式連發銃 價四十圓方 護身と獵用拳銃 價八圓以上 テルモス寒法瓶 價七圓方 種々 （遠隔は代金引換郵便販賣 實彈案內各冊共無料郵呈）

●京城市內の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候● 齒科治療 本町六丁目（館そば橫町） ドクトル 中村安子 女子見習募集委細面談（電話一五八三）

優等清酒 釀造發賣元 仁川港 吉金酒店 電話七六四番

概略營業品目 和洋帳簿諸紙類 文房具學校用品 卷紙封筒手帳類 帽子洋傘クツ鞄 洋服附屬品一式 メリヤス類一式 毛布膝掛馬車掛 石鹸香水齒磨類 タオル、ハンカチフ 手袋沓下袋物類

正札 ㊀ 引なし 官衙、陸軍、銀行、會社御用達 京城本町四丁目 池田長兵衛 電話二百〇六番 和洋雜貨 卸小賣商

●地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候●

酒精アルコール 直輸入元 仁川花町一丁目（電話六五〇番）（電略サ） 坂倉支店

諸金網製造販賣 鑛山用 製紙用 精米用 織網一式 篩類一式 其他御好次第 右今般當店監獄作業部ニ於テ製造開始致候ニ付多少ニ不拘御用命仰付被下度候也 京城本町五丁目 和洋金物商 ㊊ 釘本藤次郎本店 長電話四五番 電信略號「ク」 振替貯金口座朝鮮二五六番

旅館 京城南山町三丁目 京城ホテル 電話 長二三番 四九二番 日本室和食 特等（三圓五十錢 壹一圓） 一等（二圓五十錢 壹八十錢） 二等（二圓 壹六十錢） 三等（一圓五十錢 壹五十錢）

東京足袋 本店 東京 京城大和町一丁目（日の出橋際） 大和屋 藤井出張店 電話二百〇五番 正札付大安賣 厘毛引なし 安心して買へ升

池田商會製菓品 ライト、ムンライト、サンライス、朝鮮飴 人蔘飴、其他種々 ○朝鮮みやげ品各種 ○石器、鍋、石器類 ○食料品、雜貨 ○電話七五九 振替口座京城二四七番 ○田舍行馱馬運搬○物品委托問屋 京城南大門通 池田商會 京城東大門通 池田商會出張所 電話千五十番

佐賀セメント 今回販賣致し候に付多少に不拘御用命被仰付度奉願候 佐賀セメント株式會社 京城代理店 南山町一丁目 山村商店 電話三四四番

飲みすぎ 食ひすぎに ビットル散 本舖 大阪市 江戶堀 猪飼史郎 各藥店ニアリ 京城南大門通 新井藥房 電話一〇六八 振替口座韓國九〇四番 十六番

瓦斯コークス販賣 京城黃金町高等演藝館隣 酒井組 電話一二四九番

滋養 高等牛乳 京城南大門外 韓國畜產會社 强壯 電話八八番

キ 二月中出帆廣告 海州行 天草丸 十四日、十八日、廿二日、廿八日 安來丸 十六日、二十日、二十四日、廿八日 鎭南浦行 三省丸 十四日、二十日、廿四日 群山行 千葉丸 十八日、廿六日 成歡丸 十四日、十六日、廿日、廿二日、廿四日 鎭島行 廿八日 千葉丸 成歡丸 十四日、十六日 三省丸 十九日、二十一日 仁川本町四丁目 合資會社 秋田商會船舶部